

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立大川小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 健康・体力づくりでは、校内で相撲大会、縄跳び運動で場やカード等を工夫したりしたことで、体作りを推進することができた。積極的に運動する児童が増え、運動技能の向上がみられた。 「のびのびタイム」は、出番・役割・承認の場がきちんと確保され、スムーズに実施することができ、絆を深めることができた。 特色のある学校作りについては保護者から高い評価を受けており、今後も縦割り班を中心とした活動や、児童が主体となった学校行事や地域を素材にした授業等の取り組みを充実させていきたい。 学力向上「チャレンジタイム」の取り組みでは、2学期から条件を意識して書かせるようにしたところ、作文に書き慣れる児童の姿がみられた。 家庭と連携し「家読の日」に取り組んだが、学年に応じた選書などを紹介し、さらに読書の習慣化を図っていきたい。 本校では、人権・同和教育を積極的に推進し、心の教育やいじめの問題に取り組んでいる。しかし、傷つく言葉を友達にかけたり、些細なことでもけんかになったりする場面が見られる。特に最近ではトラブルの原因となる言動をインターネット等から影響を受け、使用していることもあり、保護者と連携しながら情報モラル教育を推進していく必要がある。
2 学校教育目標	「元気いっぱい、やさしさいっぱい、知恵いっぱい」の児童の育成
3 本年度の重点目標	<p>「元気いっぱい」①健康なからだづくりを意識して取り組む児童の育成</p> <p>「やさしさいっぱい」②人権学習、花いっぱい運動、「心の教育3点セット」の活用等による豊かな心の育成</p> <p>「知恵いっぱい」③小中連携による学力向上の推進</p>

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上 「知恵いっぱい」	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。	「授業づくり1・2・3」を活用し、全校で統一した学習過程で算数科授業を実践する。 ・小中連携での研究の推進	B	「授業づくり1・2・3」を活用した実践が現在約50%。今後も継続と徹底を呼びかける。各自がマイプランの指標達成に向けて適宜、自己の実践を振り返る時間を設定する。	A	「授業づくり1・2・3」を活用した授業実践が約60%以上と職員が意識をしながら授業づくりに取り組めた。マイプランの指標達成度は、「概ね達成」を合わせると約90%以上と高い達成率だった。	B	・おおむね達成されている。
	○小中連携による学力向上対策地域指定事業	○教師全員、年間1回の授業公開を行う。 ○研究指定公開授業(1年次)	○教師一人ひとりが「授業づくり1・2・3」に則った授業形態を実践する。 ・中学校区3校の教師が年に1回以上、それぞれの学校の公開授業に参加することで研究を深める。	B	・ノート指導を中心に全校で共通の取り組みが行えた。話し合い活動についてはコロナウイルスの影響で2学期からの取り組みとなった。まだ、対話まで至っていないので児童同士のやりとりが1往復半以上を目指して取り組んでいく。年1回以上の授業公開は、全員行えた。	A	・学習過程を全校で統一することができた。「めあて→まとめ」までの流れが、どの学年でも定着し、児童が見通しをもって学習に臨めるようになった。 ・算数ノートの書き方を統一し、よく書いているノートを月1回紹介した。書き慣れてくるに従い「自分の考えを説明できる」と感じる児童が、7月(53%)から12月(73%)に伸びたことは、全職員が校内研究に意欲的に取り組んだ結果といえる。	A	・十分達成されている。 ・7割近い児童が「自分の考えを説明できる」と答えたのは、優れた結果。
●心の教育 「やさしさいっぱい」	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○廊下は右側を歩き、元気なあいさつや返事をする児童の割合が80%以上。	・道徳や学級活動の時間に、「心の教育3点セット」を計画的に取り入れる。	B	・廊下の右側歩行、元気な挨拶や返事については、70%程度の児童ができるようになっていく。今後も継続して指導していく。「心の教育3点セット」は80%以上の学級で計画的に取り入れられている。	B	・廊下の右側歩行については80%程度、元気な挨拶や返事については60%程度の児童ができていた。挨拶や返事の音がだんだん小さくなってきたため、来年度の課題として指導していきたい。「心の教育3点セット」については、90%以上の学級で実施された。	B	・おおむね達成されている。 ・挨拶は人間関係を築く基本。 ・通学時、元気に挨拶してくれる子が多く、気持ちがいいし、うれしく感じる。
	●人権・同和教育の充実	○こころのアンケートでは「学校が楽しい」と答える児童の割合が80%以上。	・こころのアンケート等を毎月実施し、児童の心の状態や人間関係の様子を詳細に把握する。	B	・心のアンケートを通して、児童の悩みや困り感、友人関係の状況把握などはその都度できている。しかし、学校が楽しいと答える児童の割合80%は毎月の達成とは言えず、学校全体や各学級での新しい取り組みや支援を引き続き行っていく。	B	・心のアンケートの実施と年に2回のいじめアンケートなどから、児童の人間関係の状況を把握し、毎週の各学級の気になる児童についての報告と情報共有を行った。いじめ対策等については児童への対応において、2月に最終確認を行い、各学年の人間関係等の把握に努め、共通理解を図った。保護者アンケートで91%と昨年度よりも評価が上がった。	B	
	○縦割り班での異学年交流体験	◎縦割り班(のびのび班)の活動を、共遊や掃除、給食の時間などに意図的に仕組みながら交流を進める。	・のびのび班のリーダーの役割を持たせ、主体的な活動になるように計画表を作らせる。	B	・月に1回共通、毎日掃除と計画はしていたが、コロナの影響で児童が望む活動ができていないことがあった。そのため、秋の行事や人権集会などで縦割り班での活動を取り入れた。	A	・コロナの影響はあったが、職員アンケートでは100%、保護者アンケートでは96%と縦割り活動に対して高評価だった。そのため、来年度も縦割り班での交流を積極的に実施したい。	A	
●健康・体づくり 「元気いっぱい」	○食育の充実 ・効果的な保健指導、治療率向上	○食の大切さに対する保護者や児童の意識を高める。 ○全学年で、朝食の喫食率と衛生面の管理(ハンカチの所有、爪を切る等)ができる割合85%以上。 ○健康診断結果に基づくむし歯の治療率を80%以上。	・給食試食会などPTAと連携した取組を行う。 ・朝食の必要性を保護者に伝え、各学期に1回は朝食の喫食調査を行い実態を把握する。 ・各学年に応じた衛生の指導を行い、保護者にも指導内容を伝える。(感染症対策を含む) ・歯科衛生士と連携した保健指導や、歯や口に関する情報の提供、治療の状況確認を定期的に行う。	B	・コロナの影響で給食試食会は中止したが、PTAと連携して保護者向けの栄養教室を実施した。 ・朝食の必要性を食育日より保護者に伝えた。6月の喫食調査では朝食を食べている児童は94%という結果だった。 ・1・3・4年生の学級活動で、「朝食」や「栄養」についての食育教室を行った。今後もおたより等で啓発を図りながら、継続して取り組んでいく。 ・衛生面(ハンカチ、ティッシュ、つめを切る)は90%近くできている。 ・むし歯の治療率は55%(11月現在)である。11月に保健指導を実施し、むし歯予防の意識を高めていく。	A	・保護者や児童の喫食調査の感想では、朝食をとると1日元気になるなど前向きな意見があり、生活を改善するための工夫を啓発するために食育のおたよりにのせて伝えた。11月の喫食調査では朝食を食べている児童は96%という結果だった。6月より2%増加した。 ・11月に各クラスで歯と口の健康に関する保健指導を実施した。また、むし歯の受診が済んでいない家庭に受診の勧めを配布してむし歯の治療を促した。3月現在の治療率は83%である。	A	・十分達成されている。 ・仮性近視対策は何か行っているか。
	○体力づくりの推進、教科体育の充実	○外遊びを呼びかけ、健康で元気な体づくりを推進し、1週間の総運動時間が60分未満の児童が0%。	・縦割り班活動を活用し、外遊びや体づくりについて指導する。	B	・コロナの影響もあり、縦割り活動はなかなかできなかったが、体育の授業を中心に運動会、遠足、持久走大会、マラソンタイムなどできるだけ体育的な行事を減らさずに子供たちが元気に活動できるようにした。できる限り声をかけ、体を動かす習慣作りを努めた。	A	・コロナの影響で思うような外遊びはできなかったが、体育の時間を中心に時数を減らさず活動させることができた。また、縄跳び台の活用が多く、たくさん児童が活動していた。そのため保護者アンケートでは96%と高評価だった。体育から遊具や外遊びにもつなげる指導をしていきたい。	B	・野球や剣道をしている子どもが多く見られ、いいことだと思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日) ・学校閉庁日の設定	B	・4月～10月において45H以上の時間外勤務はのべ20人(約19%)で7月と10月は約半数の職員が45Hを超えている。時間外勤務の削減に向けた対策を行い、職員の意識の高揚が見られるので、継続して取り組んでいく。	A	・11月～2月における45H以上の時間外勤務はのべ7人(約12%)であり、56H以上は0人であった。ほとんどの職員が見通しをもって業務を遂行しており、早めに退勤する意識(雰囲気)が全体に定着してきている。	A	・十分に達成されている。 ・先生方も時間外勤務が多いとのこと。先生方にこそ、ゆとりの心で勤務してもらいたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○支援体制の整備 ○ケース会議での情報共有 ○通常学級の在籍する児童の支援	○児童の正確な実態把握をする。 ○特性を持った児童や個別に支援が必要な児童の共通理解を進める。	・教育相談の時間(毎月1回)の中で情報交換をする。効果的な支援の方法を探る。 ・就学支援が必要な児童に対する対応は、特別支援教育コーディネーターを中心に計画的に実施する。	B	・月1回の情報交換だけでなく、巡回相談やスクールカウンセラー、ソーシャルワーカーの先生にも相談し、支援について話し合うようにしている。2学期末か3学期にもう一度、巡回相談をお願いし来年度に向けての支援体制を考えていく。	A	・月1回の情報交換だけでなく、困り感のある児童については、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーの先生に相談したり、保護者との面談を行ったりしながら、支援の方向性を確認することができた。アンケートの最終評価では職員はAB評価合わせて100%、保護者はAB評価あわせて89%と中間評価や昨年度評価より上がっている。しかし、まだまだ支援が必要な児童は数名おり、保護者とも連携しながら支援の方法を探っていく必要がある。	A	・評価が難しい項目だが、個人の持っている長所がひとつでも伸びてほしいと思う。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般において、コロナ禍で制限されることも多かったが、児童は、保護者や地域の方の協力や支援を受けながら感染症予防に努め、のびのびと学校生活を送ることができた。学校教育目標の具現化に向け中間評価を経て、職員の意識を高めて日々の実践につなげることができた。 学力の向上に関しては、職員全体の共通理解と共通実践で学習の行いや児童の考える力の向上につながっていると思われる。今後は、チャレンジタイムの効果的な取組、読書や家読の推進により文章を読み取る力や話し合う活動を通して、考えを広げたり深めたりできる取組を行っていく。また、効果的なCTの活用についても探っていく。 こころの教育に関しては、道徳の授業や縦割り活動など様々な取組を行っている。発達段階や個人差があるなかで、児童の理解と行動がつながっていくように、それぞれに応じた指導支援を学校教育全体を通して行っていく必要がある。 人権・同和教育では、仲間づくりや支持的な風土の育成に努めるとともに、部活史学習や松浦小と共通教材の相互授業参観等を行ってきた。今後も継続して行いながら研修と実践に取り組んでいく。 健康・体づくりに関しては、規則正しい生活のリズムをベースに自身の健康管理を自覚させ習慣化できるように、家庭との連携を図りながらさらに啓発していく。 特別支援教育に関しては、巡回相談やケース会議、SC、SSW等のリソースを活用し、適切な支援のあり方を探り、全職員で対応できる体制づくりを継続して行うようにする。
----------------	--